

「ちょこっとバス」が 東近江市を元気にする！



1 東近江市について

東近江市は滋賀県の南東部に位置し、地形は東西に細長く、東に鈴鹿山系、西に琵琶湖があります。総面積は388.56km²。人口は118,977人。(平成20年8月1日現在)平成17年2月に、1市4町(八日市市・永源寺町・五個荘町・愛東町・湖東町)が合併し「東近江市」が誕生。そしてさらに平成18年1月、蒲生町及び能登川町と合併し、新しい「東近江市」になりました。東近江市の交通網は、近江鉄道がJRと結び京阪神への通勤・通学圏内となっています。主な交通拠点として、JR能登川駅、近江鉄道八日市駅、名神高速道路八日市インターなどがあります。



2 再編までの経緯 ～コミュニティバスと廃止代替バスが混在～

旧八日市市では平成16年から公共交通空白地の解消を目的に、コミュニティバス「ちょこっとバス」を運行、一方、各旧町では廃止代替バスが運行していました。合併時には料金体系などのサービス水準が混在する状況であったため、平成19年4月に再編を行いました。また、平成19年10月から国の公共交通移動円滑化設備整備費補助事業を活用させていただいて、能登川地区で実証運行を開始しています。(平成20年度からは、地域公共交通活性化・再生総合事業。)

3 再編時に工夫した点など

(1) 料金、愛称、デザインを統一

- 料金を一乗車200円に統一
- 愛称を「ちょこっとバス」に統一
- 車体デザインを統一し、路線別に色分け

⇒これらは、低廉な料金設定による乗車人員増や、愛称・デザインの統一による新市の一体感の醸成をねらったものです。路線別に車体のベースの色を変えることで、デザインは統一しながらも乗客にわかりやすいバスとしました。



路線別に色分けした車両

(2) 日常生活に密着した路線設計

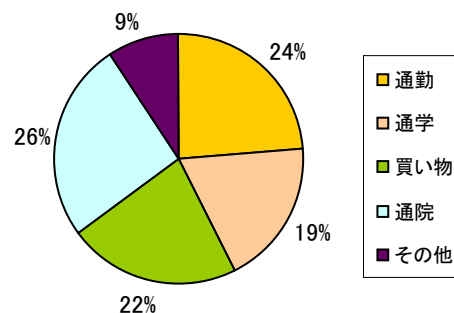
～駅、病院、スーパーを軸に～

- 利用者アンケートや実態調査から、通勤・通学、買い物、通院の利用が多いことがわかりました。

⇒そこで、それぞれの路線ごとに ①駅 ②買い物 ③病院に行けるよう路線設計を配慮しました。

また、あらかじめ指定したバス停では、希望者に「乗り継ぎ整理券」を交付し、そこから他の路線に乗る場合に追加料金が不要になる制度を設け、上記の3施設に直接行けない路線でも乗り継ぐことで行くことを可能にしています。

バスの利用目的(平成19年度アンケート調査から)



調査方法: バス車内でアンケート用紙を配布
配布枚数: 550 回答枚数: 191

(3) デマンド型乗合タクシー「ちょこっと号」を導入 ～乗車人員の非常に少ない路線で導入～

○乗車人員の非常に少ない路線のうちバスを使うことが効率的でないと判断した5路線について導入しました。

バスと同様に路線、ダイヤは決まっており、料金もバス同様 200 円です。バスとの相違点は、予約が必要で予約時のみ運行することと、タクシーの車両を使用していることです。

運行はタクシー会社に委託し、運行時のメーター料金を市が負担します。

⇒駅で待機のタクシーを利用するため、バス運行時よりもダイヤを増便することができました。バス運行時よりも利用者が増加した路線もできました。市としては、バスを運行するよりも経費を大幅に削減でき、タクシー会社としても予約が入る分だけ仕事が純増となりますので、双方にメリットのある事業となりました。



マグネットシートを貼り付けて運行する「ちょこっと号」

(4) 利用促進策とBDFの利用

○「ちょこっとバス」チョコロQの製作販売

委託先の湖国バス㈱の協力を得てオリジナルチョコロQを販売。

○ブログ「ちょこっとバス日記」の開設

公式には発表しにくい小ネタなどを中心に発信。

○「ちょこっとバス美術館」

バス車内に市内の園児や児童の絵画などを展示。

市内の俳句同好会の俳句も。

○ちょこっとバスの「キャラクターお面」「ペーパークラフト」

「お面」「ペーパークラフト」を無料配布。

お面をかぶった写真をプレゼントしブログに掲載も。

○企画切符の販売

近江鉄道㈱と協力イベント時に企画切符販売。

⇒知名度と乗車率を上げること、大人にも子どもにも親しみをもって乗ってもらうことをねらいにしています。

○BDF(バイオディーゼル燃料)の利用

市内の家庭や学校給食から集めた廃食油でBDFを精製し、軽油の代替燃料としてバスに利用。

BDFは軽油に比べ環境負荷が少ない。

12 台のバスのうち 10 台にBDFを約 7.5%混合し運行。

⇒市民のみなさんが使った天ぷら油で

市民のみなさんが乗るバスを動かしています。

バスが地域での資源循環の一端を担っています。



「ちょこっとバス」チョコロQ



児童の書初めをバス内展示



ちょこっとバスのお面をかぶる子ども



廃食油を持ち寄る市民

4 乗車人員と収支状況

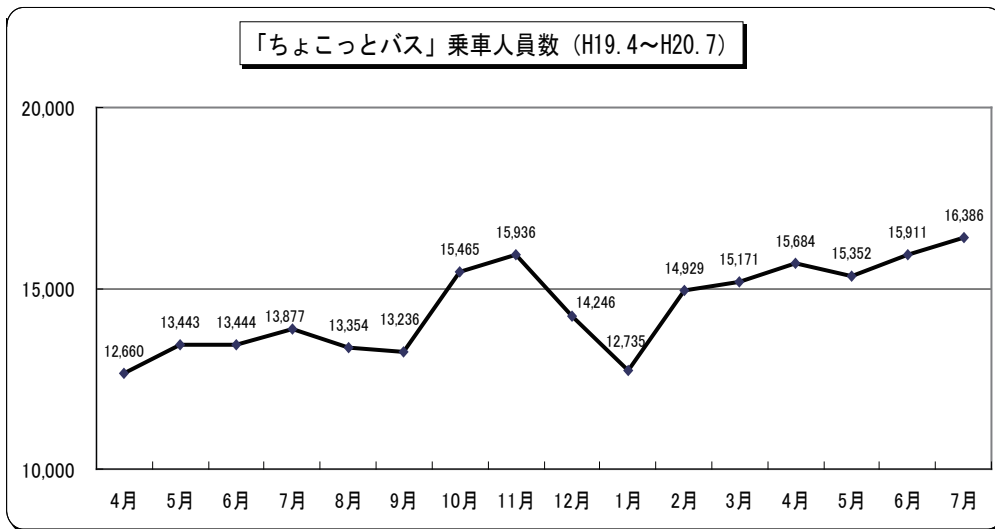
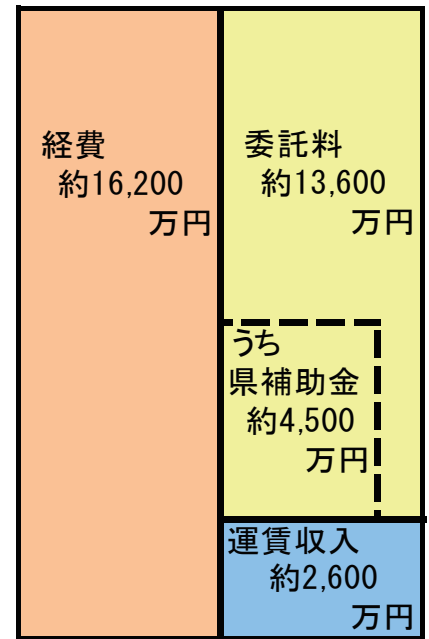
(1) ちょこっとバス

乗車人員は徐々に上昇しています。再編当初の平成19年4月は12,660人でしたが、平成20年4月には15,684人の約1.3倍となり、平成20年7月には16,386人と最高記録を更新しました。

平成19年度の収支の状況は、経費が約1億6,200万円、運賃収入が約2,600万円、委託料が約1億3,600万円で、収支率は約16%となっています。

また、県からコミュニティバス運行対策費補助金として約4,500万円の交付を受けています。

【平成19年度収支】



(2) ちょこっと号

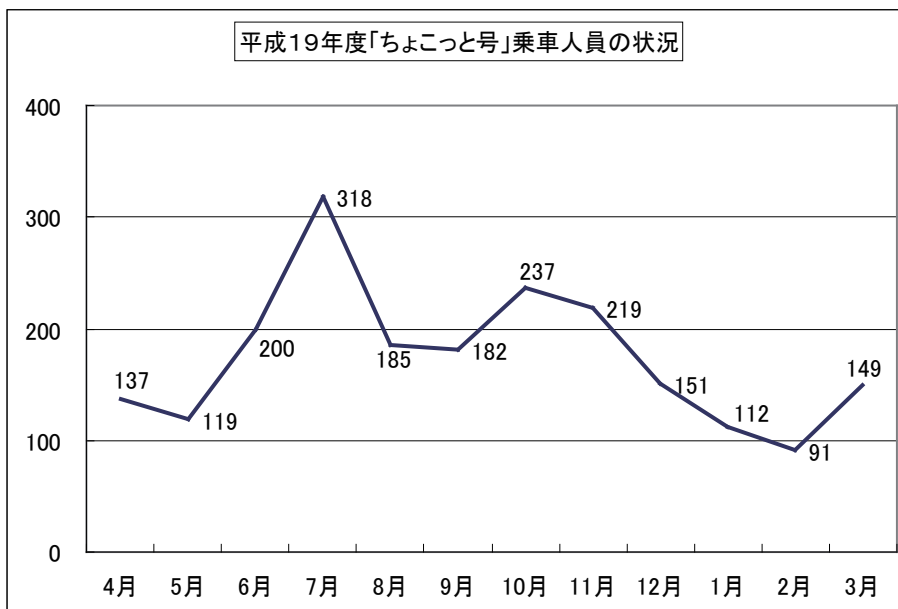
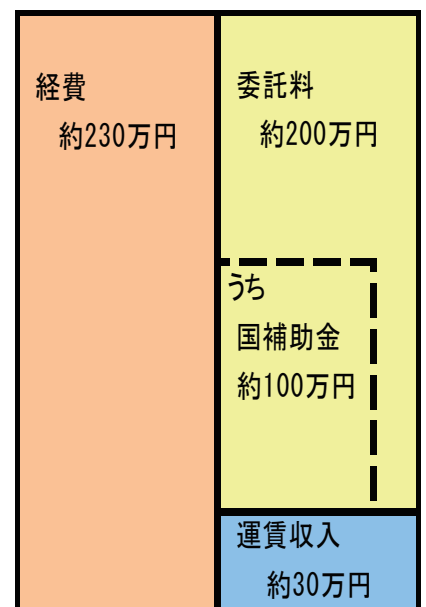
ちょこっと号の平成19年度の乗車人員数は、月平均約200人程度となっています。

経費は約230万円、運賃収入は約30万円。

委託料は約200万円で、収支率は約10%となっています。

また、国から公共交通移動円滑化設備整備費補助事業として約100万円の補助金の交付を受けています。

【平成19年度収支】



5 今後のバス政策

東近江市は、今後のバス政策を「ちょっとバスが東近江市を元気にする」と題し、交通弱者のためだけでなく、環境やまちづくりのツールとしてもバスを生かしていこうと考えています。

また、これを進めていくために市民応援サポーターの協力を掲げています。今年度はモデル地区として2地区のまちづくり協議会と一緒に利用促進策を考えています。

今後はこの3つの柱を中心にバス政策に取り組んでいきます。

